

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マガレイ

学名 *Pleuronectes herzensteini*

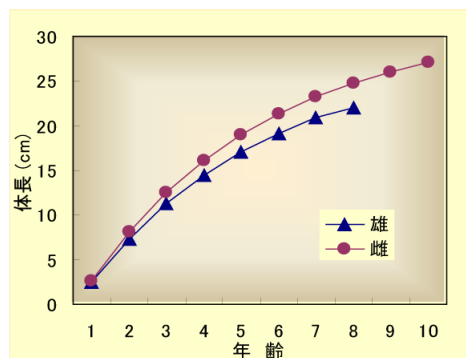
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雌10歳、雄8歳
成熟開始年齢: 雌3歳、雄2歳
産卵期・産卵場: 新潟県沿岸で2～5月(3～4月が盛期)、産卵場は水深50～90m付近
索餌期・索餌場: 夏～秋季に沖合の陸棚上
食性: 多毛類、二枚貝、小型甲殻類
捕食者: 不明

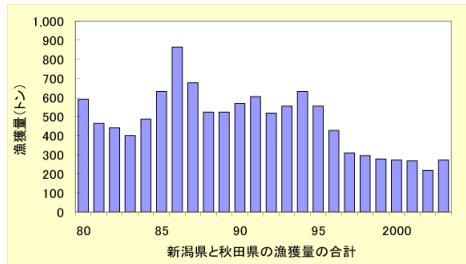
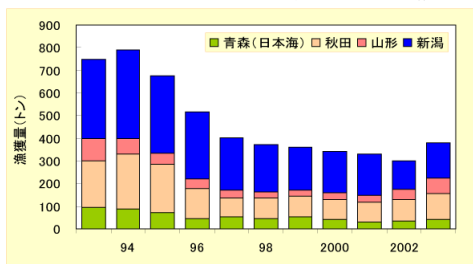


漁業の特徴

日本海北部でマガレイを対象としている主要漁業は、底びき網漁業と刺し網漁業である。その比率は、漁獲量(2003年)でみると底びき網漁業で59%、刺し網漁業で34%と全体の9割以上を占めている。また県別にみると新潟県と秋田県の占める割合が大きい。

漁獲の動向

日本海北部で漁獲量の殆どを占める新潟、山形、秋田及び青森県の漁獲量が把握されたのは1993年以降に限られる。そこで比較的長期的な資料が整備されている新潟県と秋田県の漁獲量の推移をみると、1986年と1994年に漁獲量のピークが見られるものの、1995～1997年に大幅に減少した。その後ゆるやかに減少傾向が続いているが、2003年には4県合計で381トンとなり、前年の約1.3倍であった。



資源評価法

マガレイは農林統計の全国集計対象種でないので、系群全体の漁獲量を正確に把握する統計が無い。したがって、日本海北部の漁獲量の殆どを占める青森、秋田、山形、新潟4県の漁獲量の経年変化を用いて資源の評価を行なった。資源動向の参考として、沖合底びき網漁業、新潟県の板びき網漁業及び新潟県による幼稚魚分布調査の結果を参照した。

資源状態

2003年の漁獲量(381トン)は、全県で前年を上回ったものの、1980年以降の推移をみると低いレベルにとどまった。板びき網漁業や沖合底びき網漁業(1そうびき)のCPUE、また幼稚魚調査の結果からも、現在の資源状態は1980年以降では低水準にあると判断される。その傾向は、2003年の漁獲量が1997年に次ぐ値であったことや、板びき網と沖合底びき網漁業においては、近年漁獲努力量が減少傾向にあることから、横ばいとみなすのが妥当である。



管理方策

資源は低位、横ばい傾向と判断されることから、マガレイ資源を適切な水準に回復、維持するためには現状の漁獲努力を低下させる必要があり、漁獲努力量の削減による資源の回復を目標とする。近年の漁獲量は1997年以降比較的にゆるやかに減少していることから、直近3年の平均漁獲量340トンに0.8を乗じてABClimitとし、これに不確実性を考慮した0.8を乗じてABCTargetとした。なお、水産庁では2003年7月に日本海北部のマガレイを対象とした、減船、休漁、保護区の設定などによる「資源回復計画」を作成した。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	270トン	0.8Cave3-yr	-	-
ABCTarget	220トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量の推移や参考となる漁業・調査情報から、資源水準は低位、動向は横ばい傾向と判断される
- 漁獲努力量は過剰と推測される

管理方策のまとめ

- 資源水準の回復のためには漁獲努力量の削減が必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。